

# 3人に1人がテレワークの時代



## アイケー通信

## 第7号

2021・6

新型コロナウイルスの影響で、在宅勤務をはじめとしたテレワークに移行する会社が急増しています。内閣府が全国約1万人を対象に実施した調査によると、就業者のテレワーク実施率は全国平均で34.6%。働き手の3人に1人はテレワークを経験していることとなります。とはいえ企業によって、テレワーク率の割合は大きく異なります。従業員数が1万人以上の企業におけるテレワーク率が55.8%だったのに対し従業員数10人以下の企業では24.4%。やはり企業規模が大きくなるに従って、テレワーク率も高くなっています。コロナショック以前からテレワークに取り組んでいた割合は、実は企業規模と全く相関することなくほぼ1割程度でしたから、未曾有のコロナショックで大企業が軒並み急ぎ、テレワークを導入したことが分かります。



デジタル環境の整備をはじめ、テレワークの導入にはそれなりの初期投資が必要です。体力のある大企業にとっては何とか対応できるとしても、中小零細企業においては、なかなかハードルが高いはず。テレワーク導入に格差が生じるのは、ある意味当然の結果といえます。しかし、いずれはどんな企業もテレワークに向き合わざるを得なくなるでしょう。テレワークを上手く軌道に乗せる。そのためには、まず下記のように3つのステップで大枠を捉えつつ、各ステップでのメソッドを確立していくことが重要です。

- ステップ1・・・ハード面の整備（環境・設備・リーガル面）
- ステップ2・・・ソフト面の整備（コミュニケーション強化）
- ステップ3・・・組織全体の整備（強固なカルチャーづくり）

テレワークを導入すること自体は、当然のことながらゴールではなく手段にすぎません。これまで以上に事業成長できる組織体へと進化できるのが、そのゴールです。そのためにはステップ3の「組織全体の整備」までを視野に捉えておく必要があります。具体的には、テレワークの目的をきちんと定義しつつ、人事ポリシーや評価制度を確立していくことです。

# 保険契約の更改時にはリスクの再確認を！

企業を取り巻く環境は常に変化を続け、それに伴い企業リスクも変化しています。それにもかかわらず、契約する保険の見直しを図らないケースが見受けられます。今回は、リスクに保険を対応させるためのポイントを取り上げてみます。

- 環境の変化とともに企業リスクも変化する!!
- すべての保険契約を一覧する機会を作ろう
- 保険で対応できることは意外と多い!!



例えば、仕入れ先や供給先が火災や水害により事業停止となり、その仕入れ品が入手できないこと、もしくは製品等の供給ができないことによつて自社の事業が停止した場合の休業損失については、**利益保険**などに特約を付帯することによつて、自社に火災等の被害がない場合でも保険の対象にすることができま

勧めします。

年に一度は、図表のポイントを参考に保険の見直しをされることをお

## 保険見直しのポイント

ポイント 1	この1年で新たに生じたリスクはないか（内部・外部環境の変化）
ポイント 2	対応できる保険が存在しないと思い込んでいるリスクはないか
ポイント 3	リスク対応の優先順位を考慮して保険を選択しているか
ポイント 4	「ヒト」「モノ」「収益」「賠償」の各リスクにもれなく対応しているか

### 豆辞典

「**利益保険**」とは？事業停止や正常な事業活動が阻害されたりした際に生じる損失（事故がなければ得られたはずの営業利益や事業停止期間中の人件費等の固定費）を補償する保険です

## 人物ファイル

高居 哲也 タカイテツヤ（岡山県玉野市出身・34歳）

- ◇ 入社日 : 2021年(令和3年)6月1日
- ◇ 好きな言葉 : 青は藍より出でて藍より青し
- ◇ 趣味 : スポーツ観戦（ボクシング、テニス、ラグビー）  
子供のサッカー観戦
- ◇ 抱負 : この度損保ジャパン代理店研修制度を卒業し、晴れてアイケーへ入社することになりました。昨今はコロナ禍で暗いニュースばかりですが、お客様のお困りごとに寄り添い、明るくフレッシュに活動していきます。よろしく願いたします。

